

もがみ大豆だより

第2号<中耕・培土編>
令和3年6月21日
最上総合支庁 農業技術普及課
TEL：29-1333（作物担当）

大豆の生育量確保には雑草対策の徹底！

①中耕・培土 ②排水対策 ③除草剤

本年は、播種は概ね平年並、出芽状況は地域で差がありますが、概ね平年並です。雑草はこれからが発生の本番です。雑草対策を徹底し、大豆の生育量確保に努めましょう！

1 中耕・培土

大豆の中耕・培土は①大豆の根量増加（不定根の発生、新しい根粒菌の着生）、②雑草の抑制、③土壤の通気性、排水性の向上、④倒伏の防止など様々な効果があります。特に雨の多い年は雑草の発生が多いため、②の効果は重要です。土壌処理剤の効果がなくなり、雑草の発生が見られる圃場では本葉3葉期になったら速やかに中耕・培土に入りましょう。この時、大豆の株本までしっかりと土寄せします（図1）。寄せた土が『M形』になると株本に水が溜まりやすくなり、湿害の原因になる場合があるので注意しましょう。

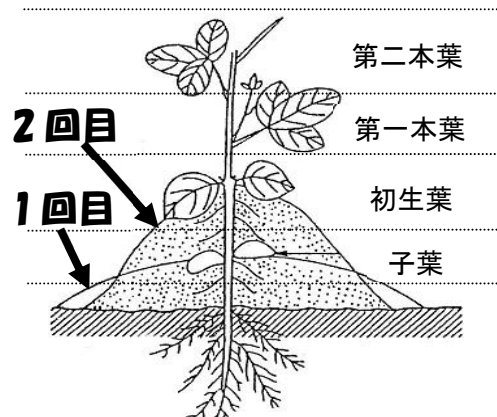


図1 培土のイメージ

中耕・培土は… 1回目：本葉3葉期に子葉節が隠れるように
2回目：本葉6～7葉期に初生葉節が隠れるように

2 排水対策

大豆は、出芽～生育初期の湿害の影響を受けやすく、特に根と主茎長の伸長が妨げられます（図2）。主茎長の伸長が悪いと、莢付きが悪くなるだけでなく、大豆が圃場を被覆する割合が低くなり、雑草が繁茂しやすくなります。それらがつながって低収となるので、大豆栽培と圃場の排水対策は切っても切れない関係です。

明渠を施工している圃場でも、まとまった降雨の後にはきちんと排水されているか、明渠に水が溜まっていないか、明渠が崩れていないかなどを点検しましょう。

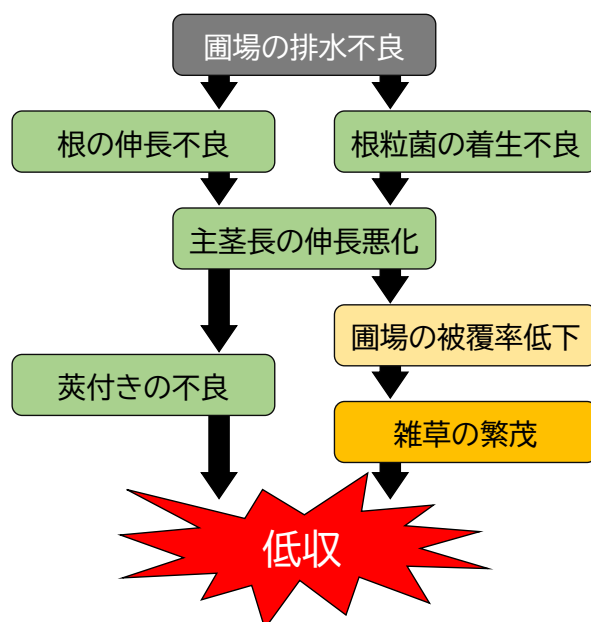


図2 圃場の排水不良による低収イメージ

3 除草剤

大豆より雑草の生育が早い場合や、中耕培土までに雑草の繁茂が予想される場合、中耕培土後に雑草の繁茂が予想される場合は除草剤の処理を検討しましょう。除草剤を処理する前にどのような草種が生えているのか、どの程度の草丈、葉数なのかきちんと確認することが大切です。処理時期が適用ギリギリにならないよう、余裕をもって処理するのが残草を少なくするコツです。

4 雑草対策

以下の雑草は収穫時に邪魔になりやすい草種の例です。大きくなると除草剤が効きにくく、抜き取りも大変です。発生初期に中耕、または除草剤で除草しましょう。除草剤が効かないほど大きくなったものは早期に圃場外へ抜き取り、種子を圃場に落とさせないようにします。雑草対策はいかに来年の雑草の発生量を減らすかもポイントになります。



イヌタデ
大豆よりも草丈は高くなる。花は房状で赤く、1株で数千個の種子をつける。



シロザ
草丈が大豆の2倍以上になる。大型になるほど茎は太く硬く根張りも頑強なので、抜き取りに苦勞する。



ツクサ
生長すると地面を覆うようになる。大豆収穫期にも青々としていて水分が多い。汚損粒の一因となる。



帰化アサガオ
ツルが長く伸びて大豆株にからみつくので、収穫の支障となるのは勿論、手取り除草にも苦勞する。根は深い。

**これから暑くなります。
農作業も適度に休憩を取りながら行いましょう。**



**農薬危害防止！農薬は必ず使用方法を確認し、正しく使用しましょう！
STOP農作業事故！ 農作業はあせらず、きもまず！**